



取扱い説明書

FOX ROBOFIT



ROBOFIT ホイールリフト設置のための使用説明書

- 1、ビードワックス受けとフロントパネルのねじをゆるめて下さい。 (写真 1)



- 2、ビードワックス受けを外して下さい。 (写真 2)



- 3、ブレーカーコントロールケーブルの上部ブラケットに、付属のねじでビードワックス受けを取り付けて下さい。 (写真 3)



4、フロントパネルを外して下さい。

(写真 4)



5、付属のプレートを準備し、本体にある穴とプレートの穴を合わせて下さい。プレートは両面テープで支持されています。

(写真 5)



6、左サイドカバーを外して下さい。ゴム製ペダルホースを切って下さい。(バルブに1とマークされているホースです)

(写真 6)



7、T-Union を付属のホースで取り付けて下さい。

(写真 7)



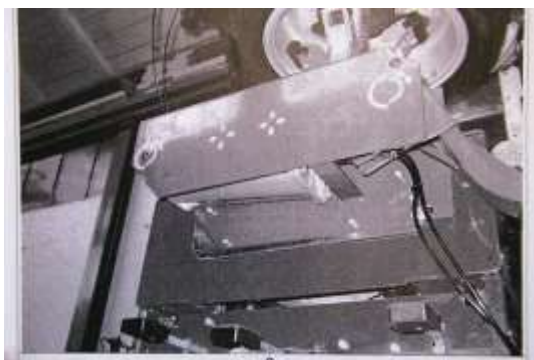
8、リフトユニットを取り付けて下さい。

(写真 8)



9、付属のねじを使用して下さい。(4つ付いています)

(写真 9)



10、リフトプラットフォームにリフトユニット接続ロッドを接続して下さい。(写真 10・11)



- 1 1、白でマークしてある4つの穴が本体に開けられています。ラバーペダル支持部をねじで固定して下さい。(2つ付いています)
一番下にある斜め方向にある穴(2つあります)から本体にフェルトペンでマークします。
(メーカーにて加工済みです。) (写真12・13)



- 1 2、ラダーペダル支持部を(4つある)付属のねじで固定して下さい。
他の斜め方向のねじ(2つ)を固定し、プレートに対し、カバーの厚み分の遊びを少し持たせて下さい。 (写真14)



- 1 3、リフトユニットから黒いホースが出ています。
ペダル支持部の左下の穴に通し、以下のように接続部につなげて下さい。
1つ目と3つ目の接続は順番はあまり関係ありません。
本体の下から出ている赤いホースを2つ目の接続部(真中)につないで下さい。
写真にあるように全ての接続部分をクランプで締め付けて下さい。 (写真15)



作成：2004/10

- 16、カバーを取り付け、開いている穴に合わせて下さい。その後、斜め方向にある2つのねじを締めて下さい。(図14ではめ込んだものです) (写真16)



- 17、付属のプラグを取り付けて下さい。

(写真17)



以上で完了です。

GB

EC 準拠宣誓書

当社

MONDOLFO FERRO S.p.A.
Viale dell'Industria、20MONDOLFO(PS) ITALY

は、下記製品に対し、製造者としての責任を負うことを宣言します：

タイヤチェンジャー FOX ROBOFIT s/n_____

この宣誓書は **EN292.1(EN292.2) EN60204.1** 指令の条件に従って行われるものです。

89/392/EEC--91/368/EEC--93/44/EEC—93/68/EEC—73/23/EEC—89/336/EEC

Mondolfo

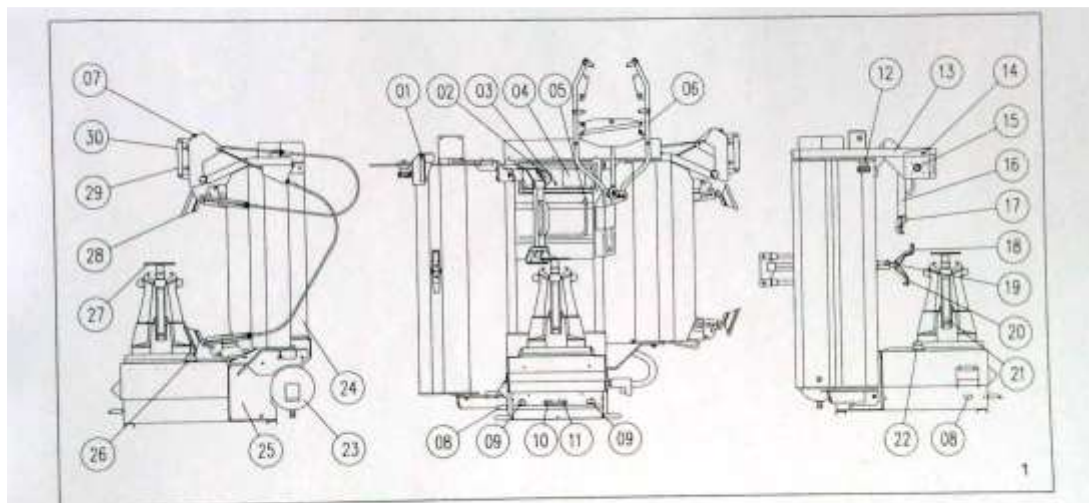
この宣言書の規範書類は、EN 45014 に準拠するものです。

1. 用途	11
2. 安全規定	11
3. 安全機器技術仕様	12
4. 輸送	12
5. 開梱	13
6. 設置	13～14
7. レイオフ	15
8. 廃棄処分	15～16
9. 技術データ	17
10. 名板	18
11. 定期メンテナンス	19
12. 操作	20～21
13. 使用方法	22～31
14. 消火機材	32
15. トラブルシューティング	32

アフターサービス用

16. 電気／空気圧系統図	33～38
---------------------	-------

Fox Robofit (図 1)

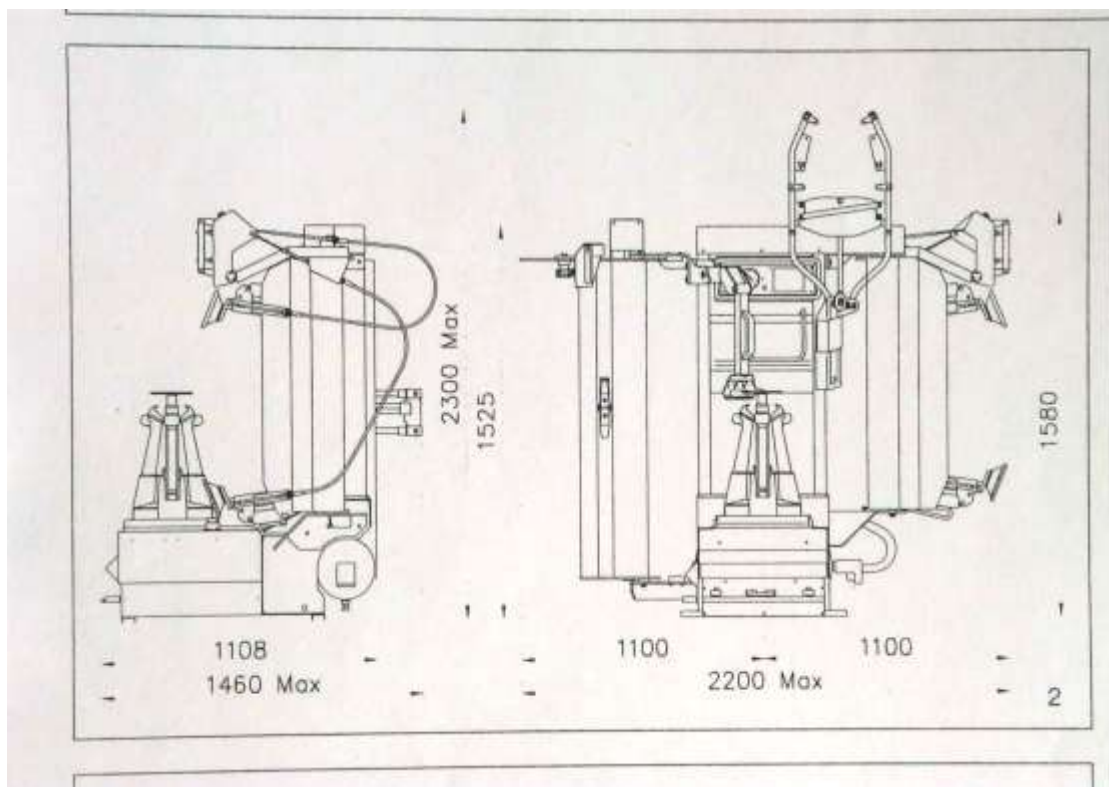


1. ROBOFIT ユニット位置調整(ロック解除)ボタンハンドル
2. 圧力ゲージ
3. 排気ボタン
4. ディスプレイ
5. エアー充填パイプライン
6. T1(チューブレスタイヤ)充填システム [オプション]
7. ビードブレーカー部位置調整(ロック解除)ボタン
8. エアー充填ペダル
9. リバーサーペダル(正・逆回転)
10. チャック閉ペダル(解除)
11. チャック開ペダル(チャッキング)
12. ROBOFIT 操作アーム位置調整ノブ
13. ROBOFIT 操作アーム
14. カメラスイッチ
15. ROBOFIT 操作十字コントロールレバー(リモコンレバー)
16. 関節ツールアーム
17. プラスチックツール
18. ROBOFIT ビード脱着ツール
19. ROBOFIT ツール脱着ピン
20. ROBOFIT 補助ツール(第一ビード外し用)
21. チャック
22. ROBOFIT(ツール位置用)側面カメラ

作成：2004/10

- 23. 空気タンク(オプション TI 仕様)
- 24. 支柱
- 25. ベース
- 26. ビードブレーカー側面カメラ
- 27. ホイール支持板
- 28. ビードブレーカーディスク
- 29. ビードブレーカー下部操作レバー
- 30. ビードブレーカー上部操作レバー

全体のサイズ(図 2)



1. 用途

このマニュアルは製品にとって不可欠な部分です。

このマニュアルにある各種警告と説明を熟読して下さい。使用上の安全とメンテナンスに関わる重要な情報を提供しています。

このマニュアルをいつでも使用できるように大切に保管して下さい。

Fox ROBOFIT タイヤチェンジャーは、リムへのタイヤの脱着への使用を目的として設計されています。

この機械は 12 インチから 24 インチのタイヤに作業可能です。

ペダル操作の電気モーターによる 2 段階スピードのチャック部回転を除き、全ての機能と操作は空気圧または油圧です。

この機械はその使用目的に特に限定して使用されなくてはなりません。

その他の使用法は不適当かつ法外なものと判断されます。

メーカーは不適切、または実情に合わない使用による故障の責任は負いかねます。

2. 安全規定

この機械は特別に訓練され、資格のあるスタッフのみが使用して下さい。

メーカーの事前承認がなく、装置に対して改造や修正をしたことにより発生する損害に対し、メーカーは一切責任を負いません。

安全機器の取り外しや改造は欧州安全基準の違反に当たります。

爆発や火気の危険のない場所で機械を使用して下さい。



些細な作業も含め、電気系統に対する作業は資格を有する技術者が行わなければなりません。

3. 安全機器技術仕様

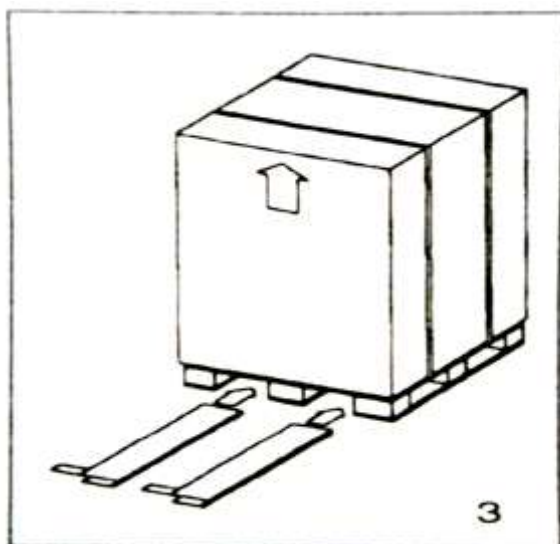
- 4 bar にセットされたエア充填機器用減圧バルブ
- 10 bar にセットされた動作機能用圧縮空気供給減圧バルブ

警告

安全装置の改造や取り外しは絶対に禁止されています。

4. 輸送

木枠に入った機械はパレット台車かフォークリフトで、パレット下に備え付けられているスロット(隙間)にフォークを入れて運搬されねばなりません。(図 3)



機械が梱包されていない場合は、以下の点に注意して下さい。

- 機械の突起部を適合した材料(ボール紙など)で保護して下さい。
- 金属ワイヤーで決して持ち上げないで下さい。
- 1000kg より大きな容量を持つ、少なくとも 100cm 長のスリング(平ベルト)で持ち上げて下さい。

5. 開梱

梱包を解いたら、機械が損傷していないことを確認して下さい。疑問がある場合 **使用せず** 直ちにお買求めの業者に連絡して下さい。梱包材(ビニール袋、発泡スチロール、釘、ねじ、木片など)は、危険なものとなる可能性があるため、子供の周りに置かないで下さい。

有害で有機分解しない梱包材の廃棄は指定された集積センターで行って下さい。

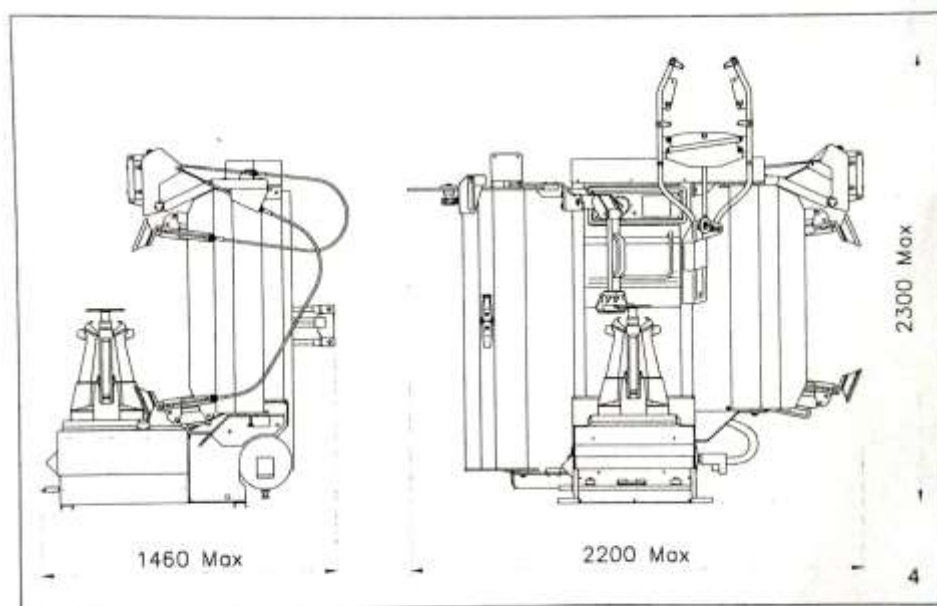


付属品の入った箱は木枠の中にあるので、梱包材と一緒に捨てないで下さい。

6. 設置

設置エリア

機械の設置には 280cm x 260cm の場所が必要です。(図 4)



作業者が制御位置から機械や周囲がよく見えることを確認して下さい。

作業者は資格のない人が前記指定場所の中に入らないようにし、危険な可能性のあるものがないことを確認して下さい。機械は水平面に設置してください(コンクリートかタイル張りが望ましい)。不安定な面もしくは損傷のある面には設置しないで下さい。

電気の接続

LCD カメラ接続は単相 200V です。



些細な作業も含め、電気系統に対する作業は資格を有する技術者が行わねばなりません。

スタンダードモデルでは、機械の電力供給系統はアース付き 3 相 200V です。機械の電圧はユーザーの仕様により予め設定されています。電力供給用の電圧はユーザー側では変更できません。電気に繋ぐためには、 1.5mm^2 の断面積があり、3 芯+アースの 4 芯ケーブルで電気パネルの電極 L1-L2-L3 に接続して使用して下さい。操作部端末ボードに電力供給プラグを接続する前に、以下の手順を踏んで下さい。

- 供給電圧が 200V であることを確認して下さい。
- 導体の状態とアースがあるかどうか確認して下さい。
- 定格 30mA の過電流保護ブレーカーが設置されているかどうか確認して下さい。
- 法令に従い、十分に気をつけて機械に電線を接続して下さい。

電線接続部材の大きさは、機械の取り入れる電力によって変わり、そのことは名板に示されています。通常動作の際、ホイールは時計回りでなければなりません。違う場合は電気プラグの 2 つの電線を付け替えてみて下さい。



メーカーは、上記の説明に従わないことで起こるいかなる損傷に対しても責任を負いません。また、従わない場合、保証の対象外になることがあります。

7. レイオフ（休止）

長期保管の場合は電源を外し、タンクを空にし、埃による損傷を受ける可能性のある部品を保護するようにして下さい。錆びる恐れのあるパーツにはグリースを塗って下さい。

8. 廃棄処分

機械を使用しなくなった場合、電気／空気制御の操作・稼動部分を外し操作できない状態にして下さい。以下のような危険な部品は無害な状態にして下さい。

- 圧縮空気タンク
- 電気モーター

処理規定に従い装置の処理分類を決めて下さい。

集積センターでくず鉄として処理して下さい。

警告

いかなる場合においても、ユーザーは、機械の使用国において、解体に関する現地の法律に従う必要があります。

オイルに関する情報と警告

使用済みオイルの処理

使用済みのオイルは決して下水に流さず、収集し産廃業者に引き渡して下さい。

オイルのこぼれ、もしくは漏れ

こぼれたオイルは土や砂などに吸収させ、蒸発させたり流れ出ないように溶剤でオイルをとり去って下さい。

オイルの使用に対する注意

皮膚への長時間の接触を避けて下さい。

空気中でオイルミストが発生したり、広がったりしないようにして下さい。

その場合は下記の予防措置に従って下さい。

-オイルの飛び散りを保護して下さい。

(保護服を着用し、機械には保護板を使用して下さい。)

-石鹼と水で頻繁に洗浄して下さい。刺激物や溶剤は使用しないで下さい。汚れた、もしくは油の付いた布で手を拭かないで下さい。

-オイルでぬれた服は着替えて下さい。

-オイルの付いた手で喫煙したり飲食しないで下さい。

-鉱油オイル保護手袋を着用して下さい。

-オイルの飛び散りから保護するためゴーグルを使用して下さい。

-鉱油オイル保護のオーバーオールを着用して下さい。

-オイルミスト発生時には除去装置を使用して下さい。

オイルの応急処置

飲み込んだ場合： 処置は必要ありません。

液体の状態で吸い込んだ場合： 自然に嘔吐する場合はすぐ病院に行ってください。

吸い込んだ場合： 多量の蒸気もしくは霧状のものを吸い込んだ場合、外気にあてて下さい。

目に入った場合： 多量の水で洗浄して下さい。

皮膚に触れた場合： 石鹼と水で洗い流して下さい。

9. 技術データ

機械特性

- 使用温度： 0-45℃
- 湿度範囲： 40℃で 57/95%
- 騒音： 70 db(A)未満
- 機械重量： 488kg
- 総重量： 540kg
- サイズ： 最大奥行 1460mm 最大幅 2200mm 最大高さ 2300mm

圧縮空気供給

- 圧縮空気供給： 8-10bar
- 空気消費量： 最大 15 リットル / 分

電源供給

1-スピードマシン

- 3相電気モーター： 200V / 50-60Hz / 0.75kW
- チャック回転数： 分速 9.5 回転
- 単相電気モーター： 200V / 50-60Hz / 0.75kW
- チャック回転数： 分速 9.5 回転

2-スピードマシン

- 3相電気モーター： 200V / 50-60Hz / 0.6~0.8kW
- チャック回転数： 分速 9.5~19 回転

一般的な稼動特性

ホイール

- ホイールの最大直径： 1050mm (41 インチ)
- リム直径： 12~24 インチ
- ホイールの幅： 標準 19 インチ~(リバーズリム 13 インチ)

チャック

- 内締め： 12~24 インチ
- 外締め： 12~24 インチ
- 最大トルク： 100kgm

ビードブレーカー

- 作動行程高さ： 各 490mm(19 インチ)
- 開口： 580mm(22 インチ)

10. 名板データ

-- MONDOLFO FERRO S.p.A

-- viale dell'industria 20

-- 61037 MONDOLFO (PU) ITALY

-- CE マーク

-- 製造年

-- 形式 : FOX ROBOFIT

-- シリアル番号 :

11. 定期メンテナンス

機械の良好な操作状態と正常な稼動を保証するためには、クリーニングと普段のメンテナンスに関して、メーカーの説明書に即して頂く必要があります。

警告：

クリーニングと普段のメンテナンスは資格のあるスタッフにより、以下に示すメーカーの説明に沿って行われねばなりません。

- 圧縮空気潤滑装置のオイルレベルを確認し、必要に応じて、SAE20 鉱油・圧縮空気オイルで満タンにして下さい。(エアースourceカプラーを外してから実施してください。)
- 潤滑装置の近くにある圧縮空気フィルターから沈殿物を流し落として下さい。
- 全ての稼動部分をきれいにして下さい。(チャック部分)
- 稼動部分の間に埃が入らないために、機械と作業場所は常にきれいにしておいて下さい。
- 上下ビードブレーカーローラー伸縮スライド角軸のアームとガイドには油を差して下さい。

供給元	油種
API	CIS 32 EP
MOBIL OIL	MOBIL VALVOLINE OIL 1405
SHELL	TONNA OIL T32
ESSO	FEBIS K32
AGIP	EXIDIA 32
FINA	HYDRAN CIN 32

警告：

必ず、電源からプラグを抜き、エアースourceカプラーを外した状態でメンテナンスを行って下さい。

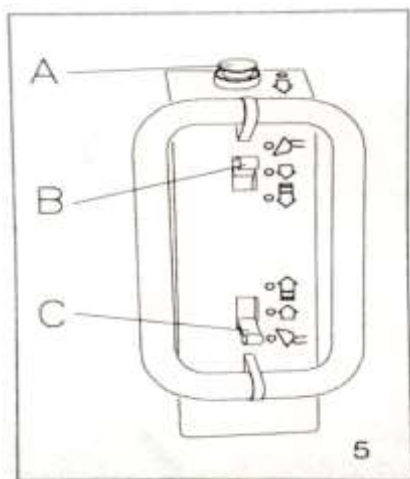
警告

圧縮空気ジェットで機械をきれいにしないで下さい。

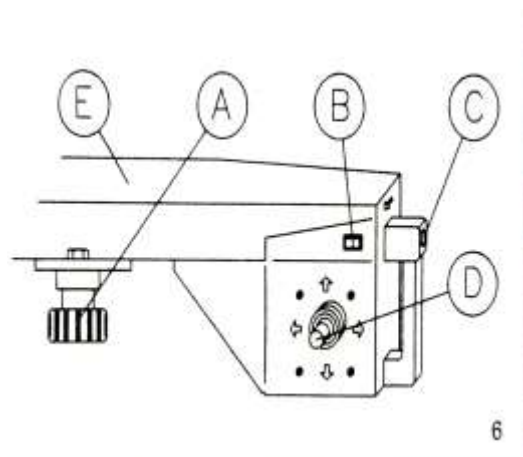
12. 操作

12. 1 ビードブレイカー操作ユニット(図5)

- A. ビードブレイカー 固定/開放ボタン
- B. 上部操作レバー
- C. 下部操作レバー



12. 2 ROBOFIT 操作ユニット(図6)



- A. 操作アーム位置調整ノブ

リバースリムで使用の際に、タイヤを外すとき操作アーム(E)を外側に動かさなければならない場合があります。

- B. カメラスイッチ

2つのカメラからの映像入力の切り替えにロックスイッチが使用されます。

- C. ロボフィット部開放ボタン

他の作業のために作業エリアを開放する、もしくはホイールの下部にツールが届くようにするためのロボフィット部を脇に移動できます。

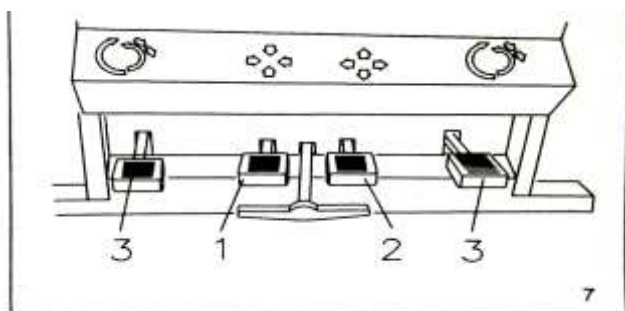
D. ROBOFIT ツール操作十字コントロールレバー

この 4 方向操作装置は全ての ROBOFIT ツールの作業と移動がマニュアルモードで操作できるようにします。

E. ROBOFIT 操作アーム

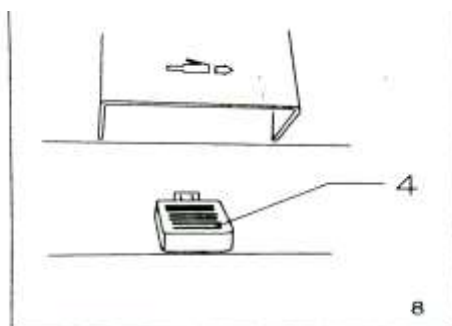
12. 3 チャックゴムペダル(図 7)

機械前側に 4 つのペダルがあります。



12. 4 エアー充填ペダル(図 8)

機械の左側にペダルが 1 つあります。



13. 使用説明書

警告：

FOX ROBOFIT は資格のあるスタッフが操作しなければなりません。

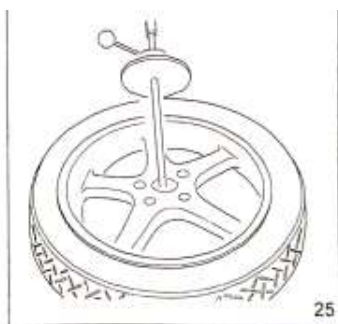
このマニュアルに記載された手順に精通していない人が扱うと、危険なことになる可能性があります。

13. 1 準備作業——ホイールを用意する

- ホイールの裏、表の両側からウェイトを取り除いて下さい。
- バルブコアを外し、タイヤが完全に空気の抜けた状態にして下さい。

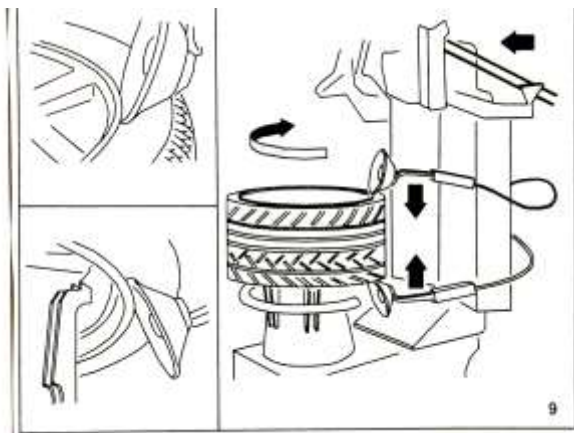
13. 2 ホイールのクランプ

- 全てのホイールはゴムパッドで内側からクランプされなければいけません。
- ゴムパッドはリムの平らな表面を押さえなければなりません。
- リムはできるだけ内側の高い位置でクランプさせて下さい。
- ホイールをクランプするためには以下の手順に従って下さい。
 - チャック締め付けペダル(図7の1)を閉じてください
(効率を上げるためには全閉しないで中立で)
 - ホイールをクランプ部に乗せ、クランプしたい位置にゴムパッドがくるまで押し下げて下さい。
 - ホイールが完全にクランプされるまでペダル(図7の2)を踏んで下さい。
 - その後の動作において滑り落ちないかどうか、リムが正しくクランプされ真ん中に来ているかどうか確認して下さい。
 - 特に難しいロープロファイル(扁平)タイヤの場合は、下記(図25・26)の安全器具を使用せねばなりません。



- 上下ビード部にビブアップを塗布(スプレー)します。

13. 3 ビードの取り外し(図 9)



ホイールをクランプした後、ビードブレーカーを作業位置に持ってきて下さい。

- 上部ビードブレーカーディスクを、操作部の上部レバー(1 2 - 1 ・ 図 5 - B)を使いタイヤに触れるまで下げ、リムの端より 1cm くらい離れた箇所でそのままにして置いて下さい。(ディスクがビード上で下にはまり込み前方に動いていくのを確認してからレバーを放して下さい。)
- ペダル(1 2 - 3 ・ 図 7 の 3)を踏んでホイールを時計方向に回し、同時に、ビードが完全に外れるまで上部操作レバーを使い、上部ビードブレーカーディスクを下げて下さい。(注)金属バルブの場合はディスクがバルブに触れないようにしてください。
- 下部ビードブレーカーディスクをタイヤに触れるように下部操作レバーを使用して下さい。ペダル(図 7 の 3)を踏みホイールを時計周りに回転させて下さい。
- 同時に、下部ビードブレーカーを近づけ、タイヤの下側のビードを外すために、下部コントロールレバーを使用して下さい。
- 幅広タイヤの場合、上下のディスクに同時に加圧しながらビード落としができます。また、一方のディスクでビードを支えて加圧すると効果的です。しかし、上下各ディスクの干渉には十分注意してください。

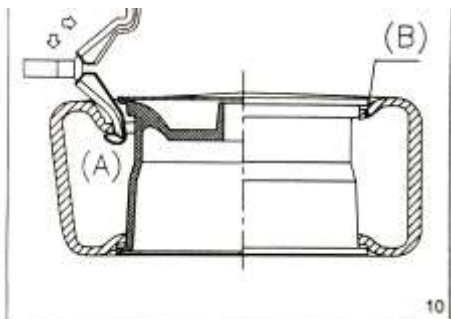
操作は、付属のミラー、もしくは LCD カメラが備わっている場合はカメラで見ることができます。

13. 4 ROBOFIT ツールでのタイヤの取り外し

両方のビードを外したのち、ROBOFIT を使用してタイヤを取り外します。

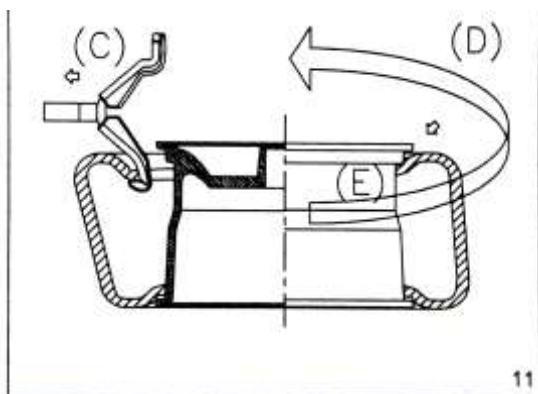
第一段階 バルブ位置をツールの近くにします。

-- ホイール取り外しツールを入れ込みます。(図 10)



-- ホイール取り外しツールを(A)の場所に合わせ、それをタイヤの外側のビード(B)に入れ込んで下さい。必要に応じて手順をスムーズにするためにチャックを回転させて下さい。

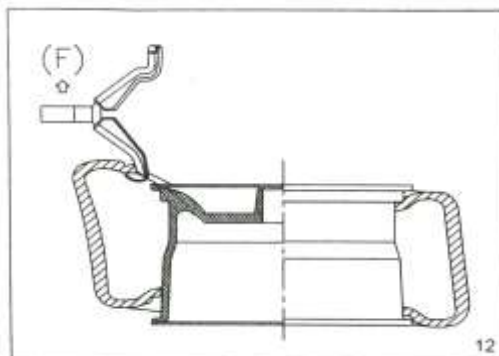
ビードをリムに沿ってスライドさせる。(図 11)



-- (C)の方に引きながら、ビードを外側に引いて下さい。

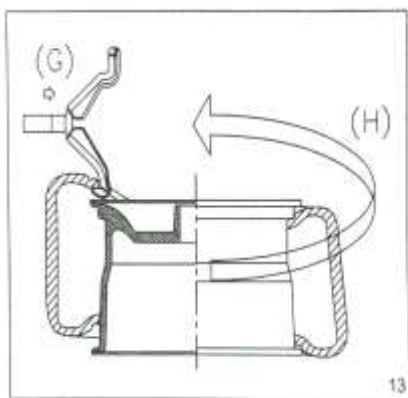
-- ツールの反対側からビードがドロップセンター(E)に落ちるまでチャック(D)を回転させて下さい。

ビードを外側に持ち上げる。(図 12)



-- リムの端の丁度上にくる部分のビードをツール(F)で持ち上げます。

リムの端より内側にビードをずらし取り外す。(図 13)

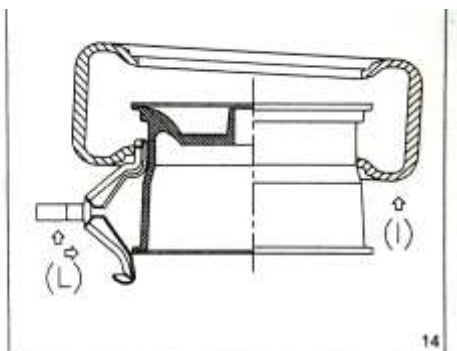


- ツールに掛かっているビードをリム(G)の端の内側にくるまで前に動かして下さい。
- チャック(H)をビードが完全に外れるまで回転させて下さい。

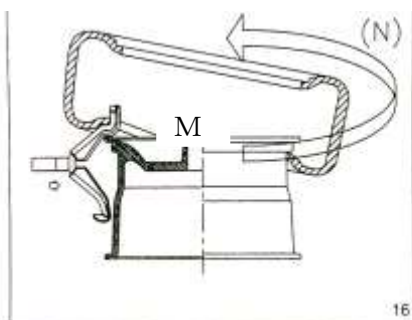
(注)ランフラットタイヤ、ロープロファイルタイヤ等ビードが硬いタイヤの場合、一気に外さず途中 1/4 回転後に十字コントロールレバーツールにてエアを少し抜いてください。

第二段階 下側のビードを外します。

- 必要であればタイヤを上方を手で保ったまま(I)、補助ツールをビードに入れ込んで下さい。(I,L)(図 14)



- ツールの下側がリムの端から 2-3 ミリ上のところにくるまで、ツールに引っ掛けてある部分のビード(M)を離して下さい。
- ビードがリムの端の少し内側にくるまでビードを近づけて下さい。(乗り上げるように)
- ビードが完全に外れるまでチャック(N)を回転させて下さい。(図 16)



13. 5 ROBOFIT ツールでのタイヤの組み付け

ROBOFIT のタイヤ組みつけ手順は補助ツール(図 1 の 18)による 2 つの機能を使用します。作業の前に、ツールを機械に固定しているピン(図 1 の 19)を抜き、最初に反転させ、ツールを下向きにしなければなりません。ROBOFIT を使用することにより、タイヤを突き出したスポークのリムに装着することができます。特に難しい特殊タイヤやリムの組み合わせには ROBOFIT の補助ツールによる組み付けは推奨されていません。その場合従来のシステムを使用して下さい。ROBOFIT を使用してタイヤを組み付ける場合、下記の手順に従って下さい。

ワックスの塗布

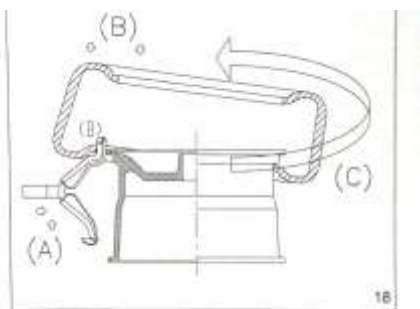
-- ビードにワックスを塗布して下さい。(図 17)



(参考)

組み付け時や、取り外し中のリムとの僅かな隙間への潤滑剤塗布は、スプレー式のビブアップの使用が便利です。

内側のビードの組み入れ(図 18)



補助ツールセット位置



- リム(A)の端に近づけて、補助ツールを準備して下さい。
- タイヤ(B)を押さえながらツールの外側の上に来るようにビードを組み入れて下さい。
- ビードが完全に組み入れられるまでチャック/ホイール(C)を回転させて下さい。

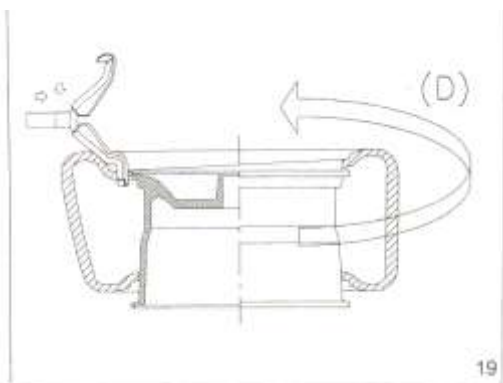


(注記)

ランフラットタイヤで、非常に固いビードのタイヤは下ビードのみを従来の樹脂ツールで組み込んで下さい。

外側（上側）のビードの組み入れ（図19）

ツール位置



偏平、ランフラットタイヤ等の
ビードの固いタイヤは3点押えをして
下さい。

- 補助ツールをビードとリムの隙間に差し込み下方向に回転させながらセットして下さい。
- ビードが完全に組み入れられるまでチャック(D)を回転させて下さい。

注記

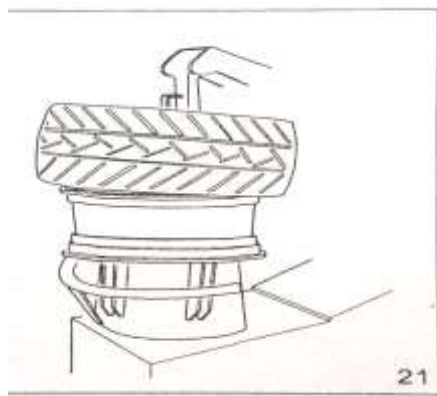
機械に付属のビード押し込み器具(ビードヘルパー)と上部ビードブレーカーを使用することにより、ハードロープロファイルタイヤに外側のビードを簡単に押し込むことができます。

13. 6 従来のツールによるタイヤの組み付け

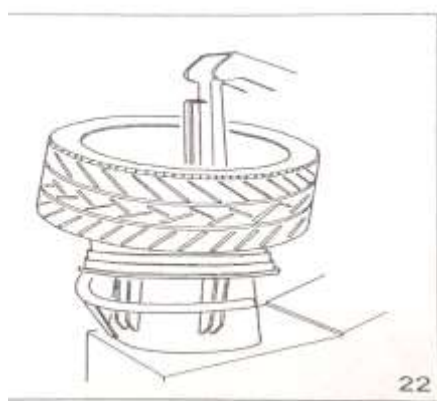
ROBOFIT の補助ツール(図 1 の 18)を使用するとほとんどのタイヤを組み付けることができます。特に硬くて難しいタイヤ (ランフラットタイヤの下側ビード) の場合は、機械に付属されている従来のプラスチックツールを使用して下さい。その特殊な形状から、従来のツールは特に硬いタイヤに対してより少ない負荷で組み付けを行います。

従来のツール(樹脂製)でタイヤを組み付けは以下の手順で行って下さい。

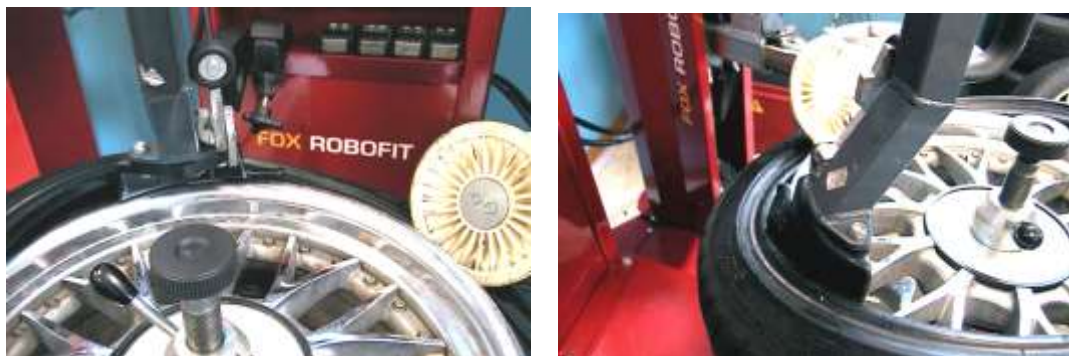
1. ビードにワックスを塗布して下さい。(図 20) 図-17 と同じ
2. タイヤをリムの上に乗せ、組み付けツールがビードの内側/リムの外側の端にくるようにアームをさげて下さい。(図 21)



3. タイヤを右手前に傾けて下部ビードの端を組み付けツールの左側上にくるようにしてペダルを踏み、時計回りに回して下さい。(図 22)



4. 上部ビードも同様にして下さい。



参考；

機械に付属のビード押し込み器具(ビードヘルパー)と上部ビードブレーカーを使用することにより、ハードロープロファイルタイヤに外側のビードをスムーズに押し込むことができます。

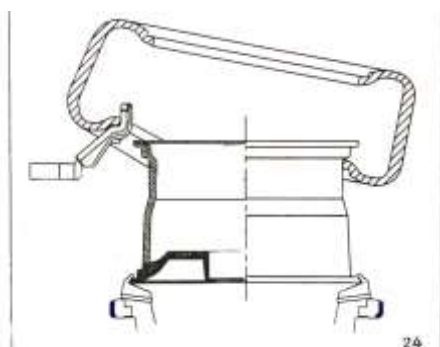
13. 7 リバースクランプリムの脱着

ホイールのドロップセンターが内側、つまりホイールの表側の反対側にある場合があります。その場合、タイヤはドロップセンター側から外さなければならず、機械に付属のジョーを使用しチャック上でクランプされます。(図 24 のチャックジョー部参照)

この種の特殊なリム形状ホイールのリバースクランプの場所(ジョー)と、ROBOFIT ツールとホイールの間に障害を起こすことがあります。

コンビネーションツールでは下方の取り外しツールがジョーに干渉して破損してしまいます。

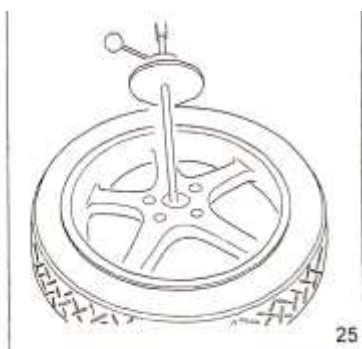
その場合、特別な注意を払い、ROBOFIT ツールを上下 2 つに分割したセパレートタイプのシングルツール部分で使用しなければなりません。図 24 では内側のビードをシングルツールを使用し取り外しています。必要な手順と動作は通常のリムの際と全く同じです。



13. 8 安全器具

円錐形の内側形状のホイールや、濡れている、もしくは汚れたリムには、チャックから滑り外れるのを防ぐため、リムを内側と外側から安全器具で固定しなければなりません。

安全器具の装着(図 25～26)



- チャックの上でホイールを置きクランプさせながら、ホイールの中心の穴に安全器具を通し、安全器具のピンが最深部の接続部にはまるようにして下さい。
(45° ほど右に回すとロックされます)
- リングナットをプレートに向けて下げて下さい。
- リングナットをセットし締めて下さい。(時計回しにしっかりと固定してください。)

13. 9 空気充填

充填機器(チャック)をバルブに接続し、機械の左側にあるペダル(図 8 の 4)を踏み空気を充填して下さい。

安全システムの空気の最大圧力は 4bar に設定されています。

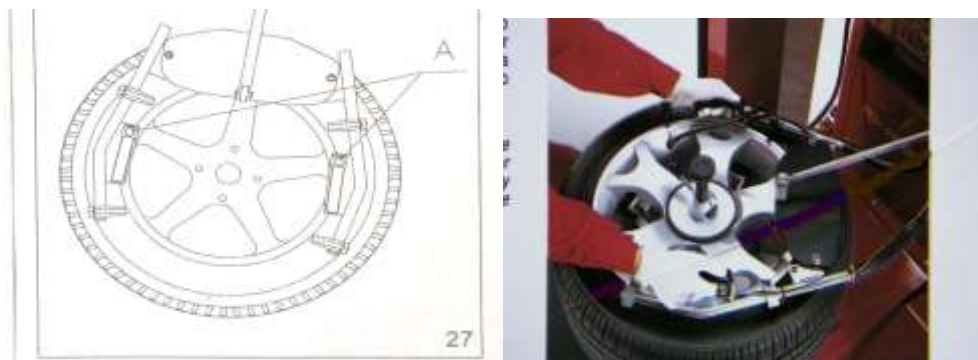
ワックスが十分に塗布されたビードとリムはビード組み付けをより安全に、かつ容易にします。

13. 10 (T1 付きモデル)の空気充填

ビードがリムに触れていない隙間がある場合、空気の充填が難しいタイプのタイヤがあります。TI モデルのみに装着してある充填リングはノズルに高圧空気を送り、この圧力がビードをリムに対して押し込み、通常のエアキャップからのタイヤ内への空気充填が開始されます。

TI モデルでタイヤでの充填は以下の手順で行って下さい。

- エアチャックをバルブに接続して下さい。
- TI システムをホイールにセットして下さい。(図 27)



- 機械左側にある充填ペダルを踏んだままの状態にして下さい。(チャックから給気中)
- TI システムボタンを空気充填と同時に押し、ビードを入れ込んで下さい。
- ペダルで給気を制御しながら通常の充填方法と同じように続けて下さい。ビードが入り込まないときはもう一度繰り返して下さい。

14. 消火機材

機械は様々な部品からできているため消火手順もそれにより異なります。

適合する消火剤の種類は下記の表をご覧ください。

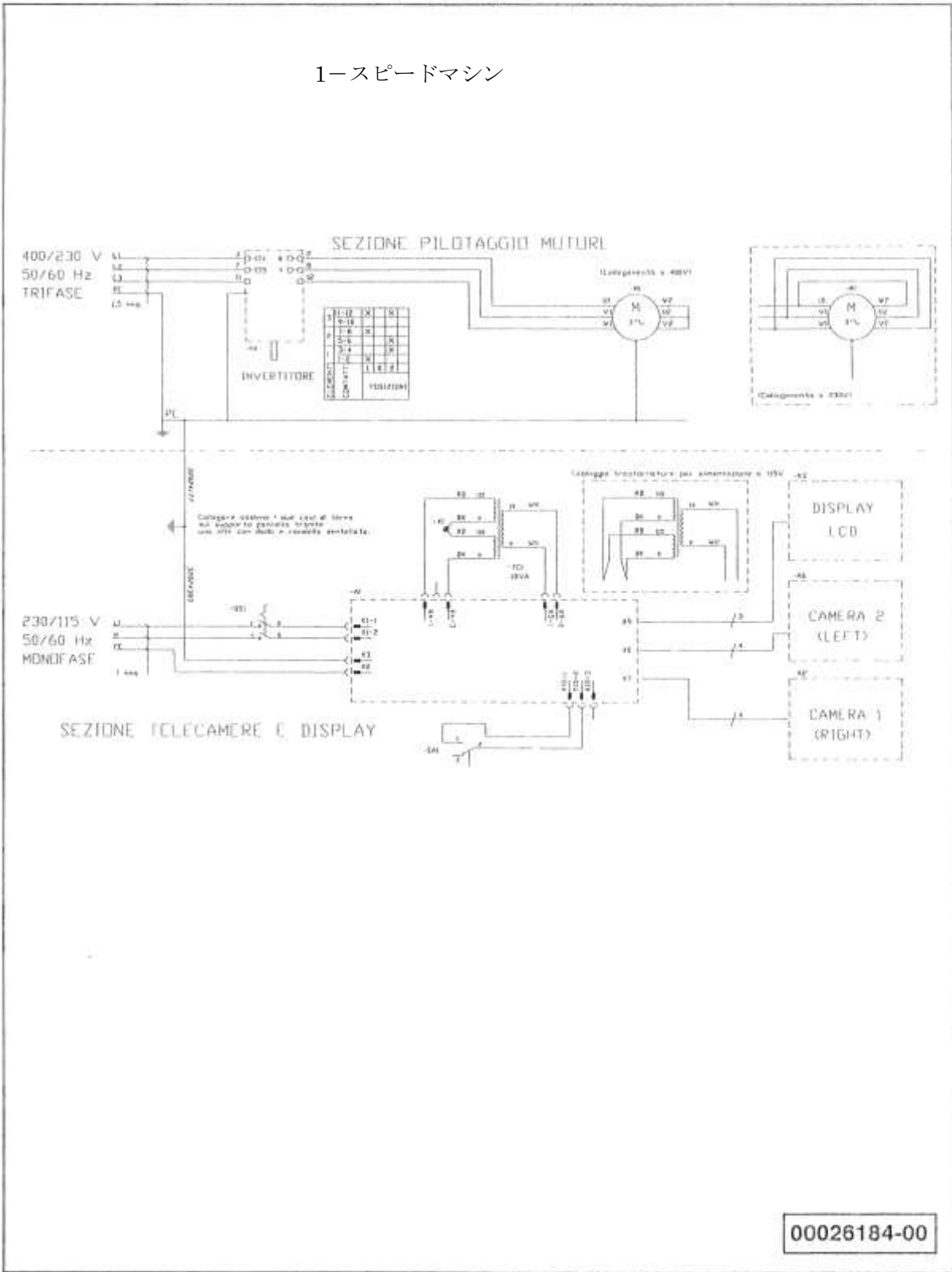
消火剤の種類	水	泡	粉末	二酸化炭素
乾燥した材料	可	可	可	可
可燃性の液体	不可	可	可	可
電気機器	不可	不可	可	可

警告

この表の情報は一般的な性格のもので、ユーザーへの案内を目的としています。各種の消火剤の使用についてはメーカーへ認証を求めなければなりません。

15. トラブルシューティング

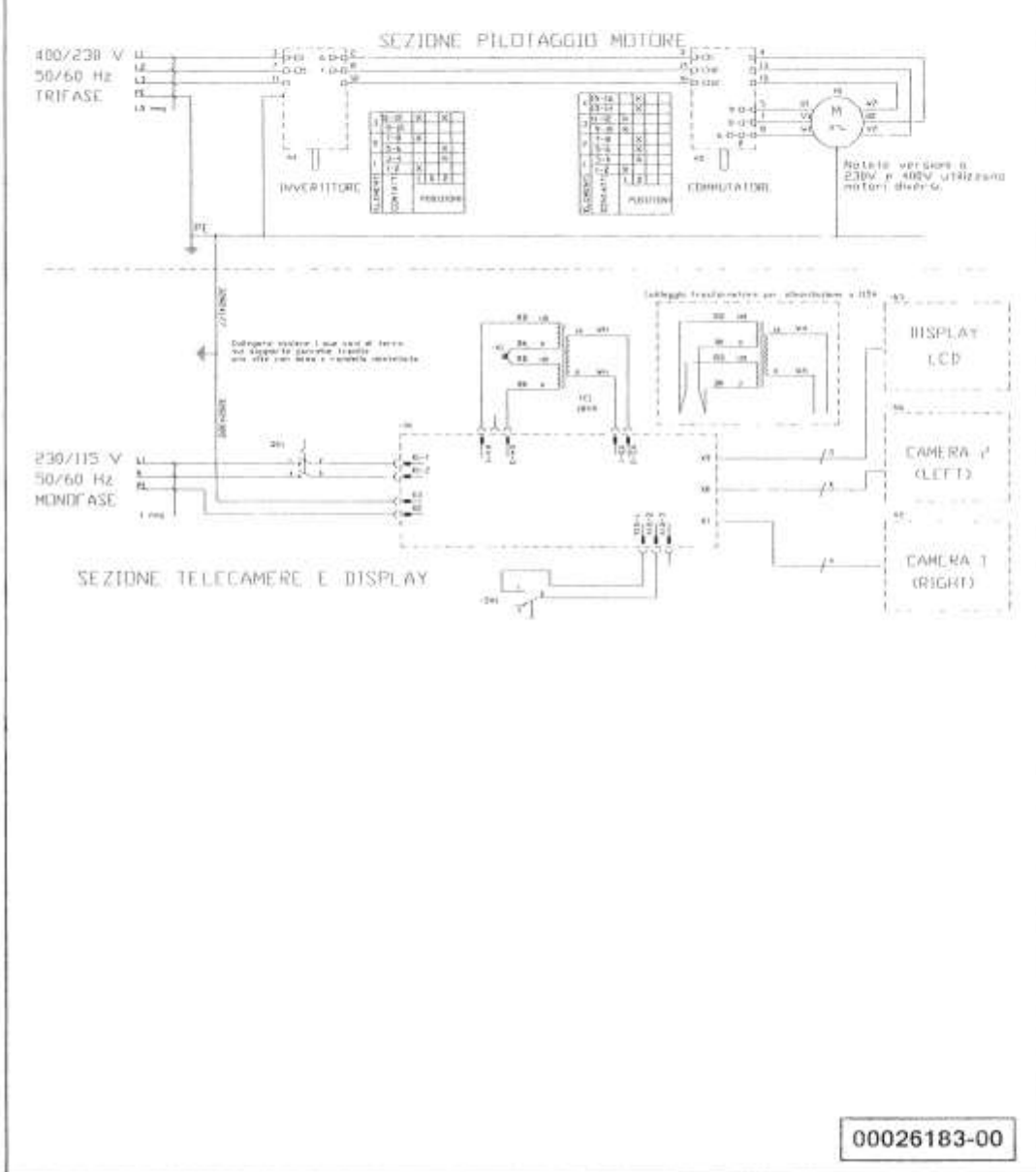
問題点	考えられる原因	解決策
チャックがホイールを固定／クランプしない	1. 空気供給圧が 6bar 未満 2. ゴムペダルの調整位置不良	1. 供給圧を確認 2. アフターサービスを呼ぶ
ビードブレーカーの上部アームが上がらない	空気充填圧が 6bar 未満	供給圧を確認 アフターサービスを呼ぶ
ビードブレーカー／チャックの圧力ポンプが動かなくなる	注油タンクにオイルが入っていない(分解図 N-37)	電源及びエア入力カプラーを抜き、適合するオイルを補充。 アフターサービスを呼ぶ
充填ペダルを踏んでもリングからエアが出ない	充填ゴムペダルの調整位置不良	アフターサービスを呼ぶ
チャックが開閉しない	1. ゴムペダルの調整位置不良 2. 圧力ポンプタンクにオイルが入っていない	1. アフターサービスを呼ぶ 2. 適合するオイルを補充
ビードブレーカーディスクが前方に動かない	圧力ポンプタンクにオイルが入っていない	電源及びエア源を抜き、適合するオイルを補充



配線図 1



2-スピードマシン



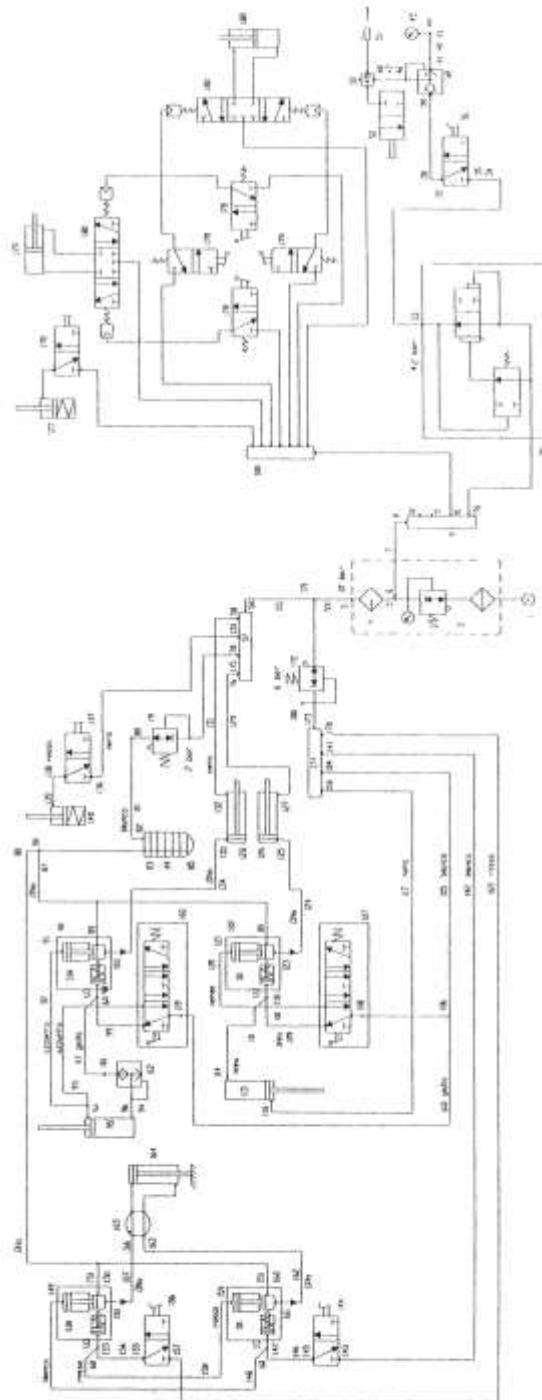
配線図 2



CAP. 17 圧力回路図
(ニューマチックシーケンス)

FOX ROBOFIT

1-スピードマシン



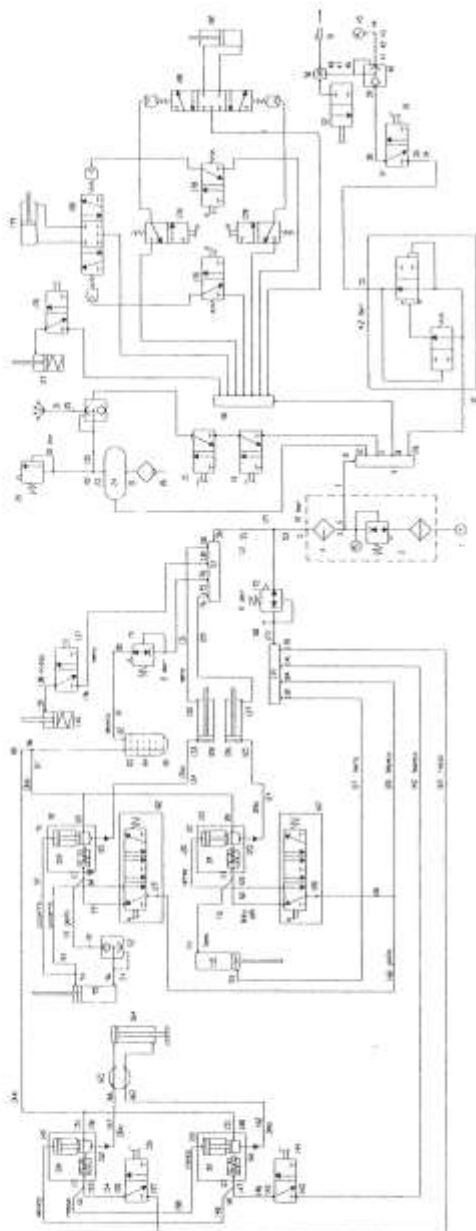
00026256



CAP. 17 圧力回路図
(ニューマチックシーケンス)

FOX ROBOFIT TI

1-スピードマシン



00026257

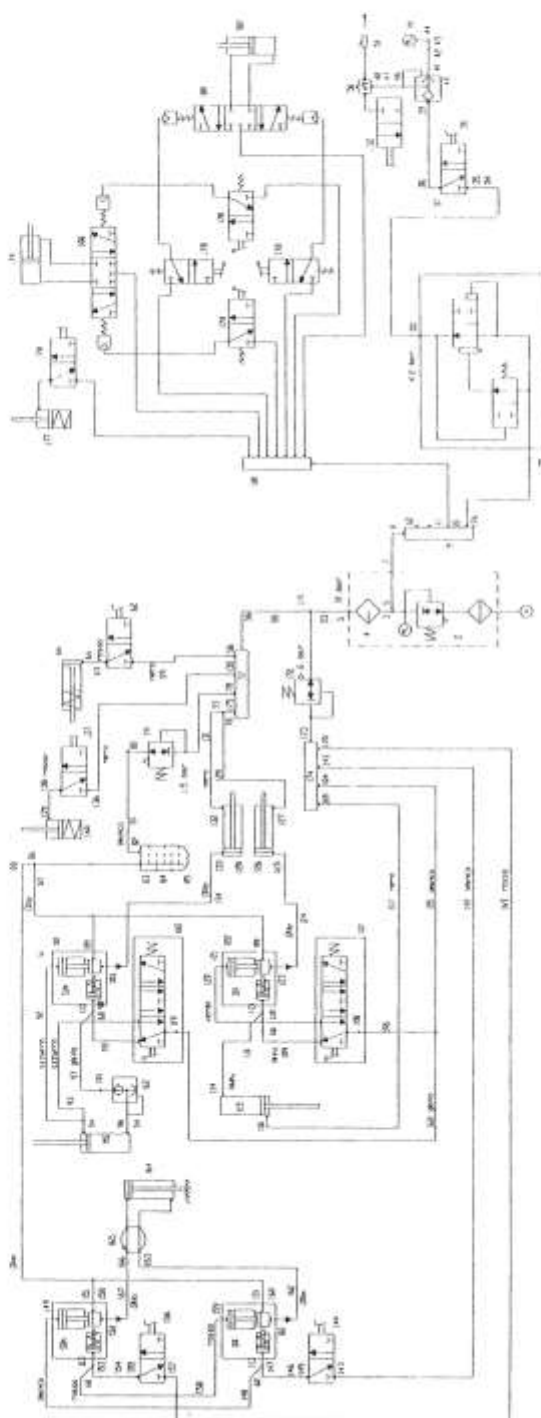
配管図 4



CAP. 17 圧力回路図
(ニューマチックシーケンス)

FOX ROBOFIT

2-スピードマシン



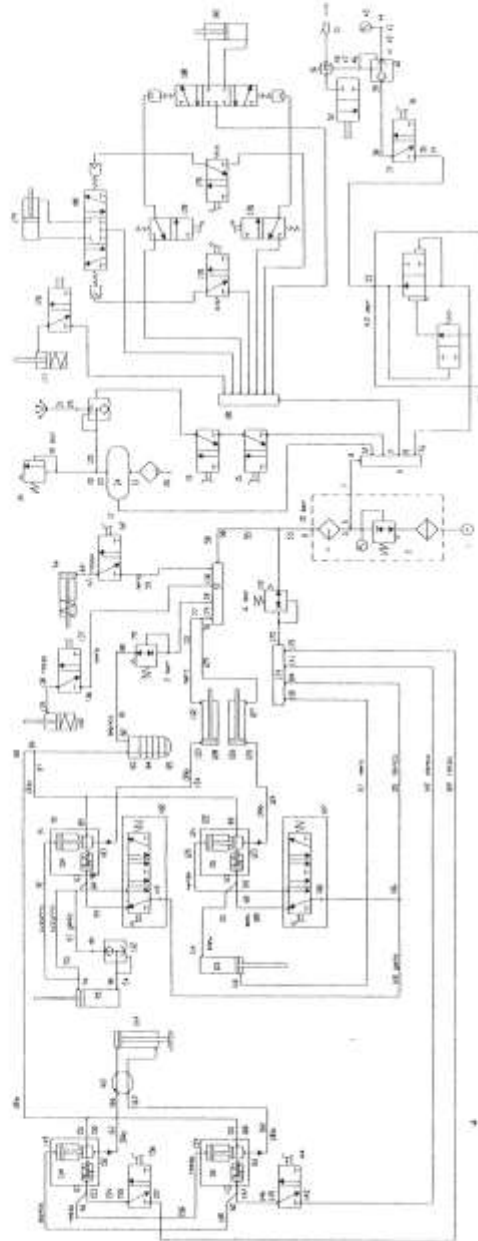
00026258



CAP. 17 圧力回路図

FOX ROBOFIT TI

2-スピードマシン



00026259

配管図 6

(株) プリーマタイヤサプライズ

〒 160-0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 26 番地 3 号

電話 03-3358-6908



MONDOLFO FERRO S.p.A.
Viale dell'Industria, 20
61037 MONDOLFO (PS) ITALY
Tel. +39 0721 93671
FAX +39 0721 930238
www.mondolfoferro.it

